

【無痛分娩についての説明書】

《はじめに》

陣痛に対する痛みやストレスは多くの場合、呼吸法やリラクセス法で軽くすることができると考えられていますが、分娩に対する不安や恐怖感の強い方や痛みに対してストレスを強く感じる方では、ストレスや不安感から分娩の進行が遅れたりして、あなたや赤ちゃんに悪影響を及ぼすことがあります。また、経産婦さんでも前回の分娩で陣痛の強いストレスを感じ、今回の分娩に関し不安を抱いている方では、分娩時の痛みを取り除くことで、よりよい分娩に取り組むことができます。痛みを適切に取り除き、安全なお産を目指すのが無痛分娩という方法です。

患者様の場合以下の理由により無痛分娩を行います

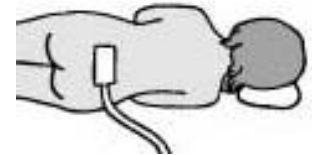
- () : 患者様の希望により
- () : 産科的理由により

《無痛分娩の方法》

当院で行っている無痛分娩は硬膜外麻酔という背中からチューブを入れて、痛み止めをチューブから流すことにより痛みを取り除く方法です。無痛分娩の中ではもっとも一般的な方法で、子宮収縮に伴う軽い陣痛は感じますが、痛みはなく、子宮口が全開したら、普通の分娩と同様に『いきみ』を行い出産します。

この際、分娩を助けるために吸引分娩を行うことがあります。

麻酔薬はおもに子宮より下の痛みを取り除きますので、意識ははっきりしています。また、足は少し重い感じはしますが、動かすことはできます。(個人差が若干あります。) 麻酔薬注入後約10~15分くらいしてから麻酔は効き始めます。 麻酔効果については医師が確認します。



また、陣痛を感じないためにおこる、長引く(遷延)分娩を回避する目的から陣痛促進剤を使用することがあります。このため無痛分娩実施時は分娩誘導と麻酔の同意書にも署名をお願いいたしております。

使用する薬剤に関しましては胎児への影響はないと考えられるものを適切に使用いたします。また、分娩室において硬膜外麻酔開始後合併症がないことを確認後はできる限り自由な姿勢で、過ごしていただきます。

出生した赤ちゃんについては他の分娩と同様、カンガルーケアなどを行うことができます。

背中の子ューブは分娩翌日の回診時に抜去します。

《長 所》

硬膜外麻酔を使った無痛分娩では緊急帝王切開となったときに同じ麻酔法を用いることができます。

また、陣痛による疲労やストレスが少ないため、分娩後の回復が早く、体力を温存できます。

《起こりうる問題点》

- ① 低血圧, 頭痛
- ② 局所麻酔薬の血管内誤注入によるショック様症状
- ③ 硬膜外チューブ挿入の際にくも膜を破損することによる広範な麻酔効果 (呼吸抑制等)
- ④ 感染, 出血, 神経障害 (尿意の消失なども含まれますが, 多くは麻酔終了後に回復します)
- ⑤ 不十分な麻酔効果

以上の問題点はその発生の早期発見により, ある程度回避可能と思われま

す。そのため当院においては無痛分娩にあたり, 水分摂取以外は絶食とし, 点滴による血管確保, 心電図モニターの装着, 胎児心拍監視装置の装着を行い, 母児管理を厳重に行い, 異常の早期発見に努めます。

※麻酔効果には若干個人差があります。効果が不十分と感じられる方は遠慮なく申しつけ下さい。

《緊急時の対応》

無痛分娩の方針としている場合でも, 母児の状況の変化によっては緊急に帝王切開が必要となることがあります。当院では異常発生から緊急帝王切開施行まで平均して 45 分 (最高で 60 分くらい) ほどの時間を要します。実際に緊急を要する事態では母児の危険回避の観点から, ご家族に連絡がつかない場合でも帝王切開を行うことがありますのでご了承下さい

